

令和3年7月に令和2年度独自目標監査及び令和3年度独自目標設定委員会が開かれました。

令和3年8月4日

士幌町長
小林 康雄 殿

独自目標監査報告書

主任監査員 貝守 良光
副主任監査員 東村 達夫
副主任監査員 小澤はる奈

1. 監査日時

令和3年7月21日～8月4日 監査員各自による書面監査

2. 監査対象

士幌町役場

3. LAS-E監査内容

独自目標（令和2年度実績）監査

①第1ステージ第3ステップ（エコアクション、エコマネジメント、エコガバナンス）

②第2ステージ第1ステップ

4. 監査結果

（1）第1ステージ

番号	内容		目標値	実績値	達成状況※
D101	温室効果ガス H29 年度比 -7.76%		3,192t-CO ₂	3,043 t-CO ₂	○
D102	電気使用量 H29 年度比 -7.76%		2,414MWh	2,359MWh	○
D103	ホームページ 5 月～10 月間 1 人 6 回		100%	100%	○
D104	廃棄物排出量 H28-30 平均値以下		10,766kg	10,287kg	○
D105	公用車使用燃料 H29 年度比 -7.76%		21,169ℓ	19,032ℓ	○
D106	水道使用量 H29-R1 平均値以下		44,151 m ³	38,492 m ³	○
D107	LAS－E 関係職員研修	全体研修	1 回	0 回	×
		実行責任・環境マネージャー研修	1 回	1 回	○
D108	各課 LAS-E 取組内容の確認		月 1 回	月 1 回	○
D109	環境ニュース年 3 回以上発行		3 回以上	6 回	○

※達成状況 ○=達成 ×=未達成

(2) 第2ステージ

		目標値	実績値	達成状況※
D202	遊水公園清掃参加人数	50人以上	0人	×
D203	水辺イベントの開催	1回	0回	×
D204	1人1日当たりのごみ排出量 H17年度対比 40.9%減	450g	588g	×
D205	地産地消を促す場づくりの事業開催	1回	0回	×
D206	土幌町環境マネジメントシステム推進本部 会議	2回	2回	○
D207	環境に関する意見交換	1回	0回	×

※達成状況 ○=達成 ×=未達成

5. 所見

(1) 第1ステージ

エコアクションに関する項目は、すべての項目で目標を達成しました。

温室効果ガス排出量とエネルギー使用量については、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの施設が休館や開館時間短縮になったことやイベントが中止されたことが大きく影響しています。公用車燃料も、出張等の減少により目標対比で1割減と大きな削減になりました。一方で、教育施設においてはガス・灯油・重油の使用量が増加した施設が多くありました。これは特に冬季において、換気しながらの暖房利用が求められたためです。

今後も公共施設の運用に際し、感染対策が前提となります。目標達成という結果のみに安心せず、基本的な取り組みが確実に継続されるよう、引き続き力を入れていただくことを望みます。特に、教育・保育施設など特に注意を要する施設では、CO₂センサーを用いて室内の空気環境を確認しながら換気と空調のバランスを取るなど、工夫していただけると良いと思います。

エコマネジメントに関する項目のうち、全体研修は実施できませんでした。集合形式の研修を避けるべき事態ではありましたが、資料配布など代替手段が取られると良かったと思います。後述するように近年は環境に関わる大きな変化がありますので、何らかの形で全庁的に意識高揚が図られるよう、適切な方策を取ってください。

エコガバナンスについては、計画を超える回数で環境ニュースが発行されました。SDGsについて町民の意識を高めるため、積極的に情報発信されたことがうかがえます。特に、各ゴールと関連して個人レベルで取り組める身近な事例を紹介したことは、自分事として捉えにくいこのテーマへの優れたアプローチであったと評価できます。今後は、町の取り組みや町内事業者の取り組みなどに展開し、町全体でSDGsへの意識・取り組みの向上に繋げていただくことを期待します。

(2) 第2ステージ

町民参加型の事業が目標項目となっており、コロナ禍のため事業を中止せざるを得なかったことから、多くの項目で未達成となりました。

今年度も人を集める事業は難しくなると思われます。感染症の状況が落ち着いてから、可能なものは目標値を高めるなどして挽回できれば良いと思います。また、従来の実施形態にこだわらず、分散型やオンラインでのイベント実施も検討されてはいかがでしょうか。

1人1日当たりのごみ排出量については、基準値から着実に減少しているものの、目標達成には至っていません。広報誌上で、町民が排出するごみの内訳にはどのような特徴・課題があるのか、それを削減するにはどのような方策があるのか、具体的な情報を目につきやすいレイアウトで訴えていただきたいと思います。地球温暖化対策も同様です。町民の協力を得なければ達成できない事項について、見せ方の工夫を重ねていただきたいと思います。

(3) 今後について

各ステージの目標達成・未達成には、新型コロナウイルス感染症への対応が大きく影響しました。感染拡大の落ち着きをただ待つのではなく、この状況下で可能な動きは何か、あるいは事態が収束した際に実施すべきことは何かを考え、新たなアクションに繋げてください。

昨年10月には、2050年までの脱炭素を目指す旨の総理所信表明があり、これを受けて今年5月に地球温暖化対策法が改正されました。「2050年脱炭素（ゼロカーボン）」が普遍的な目標になったということです。この動きは環境行政のものだけでなく、昨年12月には産業面から脱炭素を実現していくための「グリーン成長戦略」が策定されました。コロナ禍からの社会・経済の復興においても「グリーン・リカバリー」が謳われています。こうした流れは、環境への取り組みが、経済活動や社会生活の前提条件として重視されるようになってきていることの現れです。このような価値観の転換、社会変革が起きていることを認識しながら、環境マネジメントシステムの取り組みを発展させていただきたいと思います。

第2ステージでは、地域全体が対象となり、町の環境政策を推し進めるため、皆様にも一層のご理解とご協力をお願いいたします。

※土幌町環境マネジメントシステムのホームページを公開しております

(<https://www.shihoro.jp/env/>)

